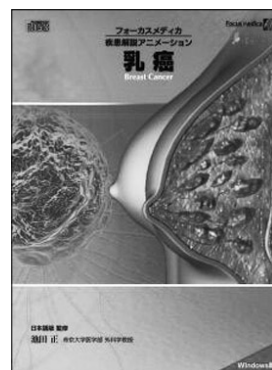


『乳癌 フォーカスメディカ 疾患解説 アニメーション』

医療コミュニケーションにおいて共有体感を促す視聴覚教材

日本語版監修：池田 正／定価 9,975 円 (CD-ROM 本体 9,500 円＋税 5%)
発行：テクノミック／TEL：03-3538-2531／<http://www.technomics.co.jp>



●教育では「なぜ？」の喚起が重要

乳がんと病気を告げられた患者・家族たちは、先の見えない不安の中で事の重大さを必死に理解しようとしている。がんの治療も慢性疾患と同様に、自分の病気と向き合いながら自己管理し、時には自分で治療を選択し決断することも求められる。「お医者様」「患者様」から、「パートナー」という関係の変化の中で、コミュニケーションは常に誤解や錯覚、思い込みなどの危険と隣り合わせにあり、どういう知識をどういう形で伝えるかは、医療のコミュニケーションにおいても重要である。そして、そのことを十分に自覚し、乳がんの治療には、自分の病気や治療を理解し、その選択に参加しているという意識を高めていけるように、患者のケアに携わるあらゆる職種の人々も知識を持ち、よきパートナーとなり医療に参加していくことが、医療の質を向上させる原動力となる。

教育の中で、「なぜ？」ということを、まず、頭の中で作り、そして「この病気はこうなっているから、こうなるのか！ だからこうなったのか！」と具体的な問題に対して多角的にしていけることは重要である。そして納得ができて「わかった！」という反応がリアルに出てくるような経験は、特に重要である。「なぜだろう？」という疑問は、知識や理論などの思考に働きかけるが、知識や情報だけでは行動は起こせない。行動を変えよ

うとする気になるのは「なるほど！」と納得できたときである。そして人は多くの刺激があったほうが忘れにくいものでもある。

●一緒に考えられるビジュアル教材

この教材は、写真やイラストではリアル感が足りない平面的なところを CG アニメーションにより、病態・検査や診断法、治療法や薬理作用について、リアルな質感・立体感・迫力で、約 10～15 分の内容だが、内部構造や細かな動作の映像が、見事に実現されわかりやすく解説している。

患者・家族、学生らにとって、理解も進み記憶に残りやすくするためには、こういう教材を媒体とし、聞くだけよりも自分から話ができるようにすると、記憶も理解もよくなるであろう。また、予防や日常生活などケアについてもまとめられており、「自分が何をすればよいか？」ということを具体的に最後に教えている。病気や治療についての教材は多いが、医療者だけでなく学生・介護系、コ・メディカル、患者・家族や一般の人にぜひ、お薦めしたい点でもある。

知識は大きな力。医療における情報の量と質、理解力の大きな差をカバーするためにも、このような視聴覚教材が患者のケアに携わるあらゆる人々に活用され、患者と一緒に見て、一緒に考え共有体感を体験しながら、創造力の働くコミュニケーションの機会となることを期待したい。